

科目名称	運動器障害系理学療法学
授業コード	AD334
英語名称	Physical Therapy for Musculoskeletal Disorders
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	相原 正博, 山村 俊一, 渡邊 修司
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>本科目は、2年次に学習した運動器障害の基礎的な知識を基に、臨床場면을想定した評価及び治療介入方法の理解を深める。また、解剖学・運動学・生理学の知識を活用し、運動器障害の理解を図り、臨床で実践出来る実技を体験する。</p> <p>本講義を通じて、カリキュラムポリシーに掲げる、運動器障害の専門的な理学療法に必要な実践活用できる知識及び実技を学ぶ。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	運動器障害分野の理学療法に携わった教員(10年以上)及び、現在も臨床現場で運動器障害の分野の理学療法に関わっている非常勤講師による最新の知見を講義する。また、臨床現場で実施している評価・治療技術を教示する。
到達目標	<p>ディプロマポリシーに掲げる、基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけるために、以下の目標を立てる。</p> <p>【科目特有の知識・技術についての到達目標】</p> <p>1. 運動器障害に対する基本的な理学療法の基礎知識（疾患、身体構造、機能解剖）及び評価・治療介入方法を理解する。</p> <p>【汎用能力としての学士力についての到達目標】</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた知識を深め、実践活用できるよう、応用力を持つ。</p>
計画・内容	<p>1)変形性股関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博（理学療法士）</p> <p>2)変形性股関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士）</p> <p>3)変形性膝関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博（理学療法士）</p> <p>4)変形性膝関節症の評価・理学療法 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士）</p> <p>5)脊椎疾患の評価・理学療法 担当教員：相原正博（理学療法士）</p> <p>6)脊椎疾患の評価・理学療法 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士）</p> <p>7)骨折の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司（理学療法士）</p> <p>8)骨折の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司・相原正博（理学療法士）</p> <p>9)肩関節周囲炎の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司（理学療法士）</p> <p>10)肩関節周囲炎の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司・相原正博（理学療法士）</p> <p>11)足部疾患の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司（理学療法士）</p>

計画・内容	12)足部疾患の評価・理学療法 担当教員：渡邊修司・相原正博（理学療法士） 13)運動器障害の臨床応用 担当教員：山村俊一（理学療法士） 14)運動器障害の臨床応用 担当教員：山村俊一（理学療法士） 15)まとめ 担当教員：相原正博・渡邊修司（理学療法士）
授業の進め方	教科書を中心に配布する資料を参考にしながら、講義を進める。 他に適宜ビデオや資料などを提示する。
能動的な学びの実施	・確認テストとその解説を行い、授業の理解向上を図る。 ・学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・各分野の範囲を教科書を用いて予習すること(1時間程度)。 ・授業後に教科書及び配布資料を用いて復習を行うこと(1時間程度)。
教科書・参考書	教科書： Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学（編集 加藤浩、MEDICAL VIEW）
成績評価方法と基準	成績評価は期末試験(100%)で行う。
課題等に対するフィードバック	小テストや課題レポートの返却時にコメントを付加する。
オフィスアワー	Campussquare参照
留意事項	・やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないこと。 ・解剖学、運動学、生理学の基礎的知識が必要であるため、復習をしておくこと。"
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。"